

いよいよ韓国語



これからの**グローバル (Global+Local)** 時代を生きる皆さんにぜひ隣の国の言葉を学んでみることをお勧めします。韓国語を受講するようになった皆さんは、大学の4年間を通して韓国語の文字である「ハングル」を読むところから始まり、挨拶や簡単な決まり文句を話し、徐々に単語と文の意味が分かるようになるでしょう。さらには、言葉を通して隣の国の文化を理解し、韓国語を話す人々に自分の生まれ育った社会や文化について語りたいという気持ちになってくれることを願っています。

ここで、韓国語は全く分からないというあなたのためにいくつかのTipをお教えしましょう。

***韓国語の文字**である「ハングル」は、10個の基本母音字と14個の基本子音字からなっていて、英語のアルファベットの26個よりも2個少ないのです。つまり、**24個の文字さえ覚えてしまえば**、授業の初日から韓国語が読めるようになります。

*日本語と韓国語は、**語順と文法がよく似ている**だけではなく**語彙面でも共通点**があります。一例として、日本語の「都市」「図書館」「運動」は、それぞれ韓国語で [トシ] [トソグァン] [ウンドン] と発音されます。これは、日本語と韓国語が共に漢字圏に属しているため、**漢字をベースにした言葉の発音が非常に似ている**からです。

この他にもまだあなたの知らない韓国語と日本語のふか〜い関わりを、今度はぜひ授業の中で体験してみてください。

授業案内

◇ 基礎科目一「韓国語1」「韓国語2」（1年次）／「韓国語3」「韓国語4」（2年次以上）

前期には「韓国語1」を学びます。「韓国語1」では、韓国語の文字を読む練習から始め、簡単な決まり文句や挨拶表現を勉強し、基本語彙もしっかり学びます。「韓国語1」は、「ハングル能力検定試験5級」を学習到達目標としています。後期の「韓国語2」では、語学力をさらにアップするとともに、幅広い韓国文化に接する機会を多く設けています。後期が終わる頃にはあなたもちょっとした韓国通になっているかもしれませんね。

「韓国語2」は、「韓国語能力試験TOPIK I（1級）」を学習到達目標としています。

基礎をよりしっかり固めたいという方には、基礎科目「韓国語3」「韓国語4」をお勧めします。

また、基礎科目韓国語1～4は、**口頭クラス**と**一般クラス**で分かれています。口頭クラスの担当者は全員韓国語のネイティブの先生で、25人程度の少人数で構成されます。口頭クラスと一般クラスは基本的には統一シラバスで運営されます。在学中により集中して韓国語を学び、より早く高いレベルにまで韓国語能力を伸ばしたい、または一度は短期・長期で韓国留学を目指したい人には、口頭クラスがお勧めです。



SUPPORT PROJECT. 1

韓国語能力試験  TOPIK
Test of Proficiency in Korean



◇ 応用科目（2年次以降）

基礎科目の「韓国語1・2」を修了した方が受講できます。

応用科目としては、言語の4技能の習得に適した「韓国語コミュニケーションIとIII」「韓国語リーディングI・II」「韓国語ライティングI」「韓国語ステップアップ」があります。2年次では、自分が学びたい授業科目が自由に選択できます。選択科目の特徴や学習レベルについては、1年生後期の授業で、別途掲示案内等が行われます。

◇ 言語文化講義科目（2年次以降）

基礎科目の「韓国語1」を修了した人なら誰でも受講できます。

「初習言語文化研究（韓国語）」は、韓国語の基礎力を身につけた上、さらに文化理解に焦点を当てた講義科目となります。履修は半期の単位でのみ可能ですので、前期または後期の時間割の都合に応じて受講してみてください。きっと今まであなたが知らなかった新しい韓国文化に出会えるはずです。

授業外活動

正規の授業科目の他にも韓国語の先生と楽しくおしゃべりしながら学べる「チャットルーム」の時間が設けられています。また、検定試験も充実していて、それぞれ「韓国語能力試験」と「ハングル能力検定試験」が年2回以上実施されます。愛媛県の指定試験会場は、なんと松山大学だけ！その他、夏休みを利用した**短期韓国語研修講座**や**海外語学研修助成制度（春季・夏季）**、協定校で学ぶ6か月以上の**派遣留学制度**など、様々な留学プログラムで皆さんの語学力アップをサポートしています。